

トランプ大統領と アメリカ民主主義の行方

自由の国・アメリカ。そうしたアメリカに憧れ、同志社の設立者・新島襄はアメリカを目指しました。しかし、今、トランプ大統領を迎え、アメリカは違う様相を示しつつあります。アメリカ人の良心はどこに向かおうとしているのでしょうか。移民問題、イスラム嫌悪感情の拡大、ポピュリズムなどを視野に入れながら、多角的にアメリカおよび民主主義が抱える課題を問うていきます。

● 日時：2017年4月15日（土）13:00 — 15:00

● 場所：同志社大学 今出川キャンパス
神学館3階 礼拝堂

● 講演：会田弘継

（青山学院大学 地球社会共生学部 教授）



司会：小原克博（同志社大学 神学部 教授、良心学研究センター長）

コメンテーター：

内藤正典（同志社大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科 教授）

貫名信行（同志社大学大学院 脳科学研究科 教授）

八木 匡（同志社大学 経済学部 教授）

■ 問い合わせ 同志社大学 良心学研究センター

CONSCIENCE

E-mail: rc-csc@mail.doshisha.ac.jp <http://ryoshin.doshisha.ac.jp>

良心を世界に—良心を覚醒させる知の連携と知の実践 良心学研究センターは、現代世界における「良心」を考察し、その応用可能性・実践可能性を探求することを通じて、学際的な研究領域として「良心学」を構築し、さらにその成果を国内外に発信し、新たな学術コミュニティを形成することを目的としています。

講師略歴

会田 弘継 (あいだ・ひろつぐ)

1951年生まれ。東京外国語大卒。1976年共同通信入社、神戸支局、大阪支社社会部などを経て86年外信部へ。ワシントン特派員、ジュネーブ支局長、ワシントン支局長、論説委員長、特別編集委員を務め、2015年から青山学院大教授・共同通信客員論説委員。同志社大・神教学際研究センター・リサーチフェロー、関西大学客員教授、アメリカ研究振興会理事、米誌 *The American Interest* 編集委員を兼務。東京外国語大や上智大非常勤講師、日本記者クラブ理事なども務めた。著書に『増補改訂版 追跡・アメリカの思想家たち』(中公文庫)、『トランプ現象とアメリカ保守思想』(左右社) など、訳書にフランシス・フクヤマ著『政治の起源』(講談社) などがある。

良心学研究センター主催 公開シンポジウムのご案内

■ 5月15日(月) 16:40 - 18:40、今出川キャンパス 同志社礼拝堂

「キリスト教主義大学における建学の精神——国際基督教大学の取り組み」

【講師】森本あんり(国際基督教大学 教授・副学長)

【コメンテーター】横井和彦(経済学部 教授、キリスト教文化センター長)、木原活信(社会学部 教授)

■ 6月6日(火) 16:40 - 18:40、京田辺キャンパス 言館

「自然科学と良心——科学者の良心が問われる時代の中で」

【講師】林田 明(理工学部 教授)、貫名信行(脳科学研究科 教授)

【コメンテーター】武藤 崇(心理学部 教授)、廣安 知之(生命医科学部 教授)

■ 7月7日(金) 18:30 - 20:30、同志社大学 東京オフィス (※「同志社講座」に事前申込み必要)

「「良心」の現代的意義——神学・外交・インテリジェンスの視点から」

【講師】小原克博(神学部 教授、良心学研究センター長)、佐藤 優(作家、元外務省主任分析官、同志社大学神学部客員教授)

※良心学研究センターが主催した過去のシンポジウムの配付資料や動画は、すべてウェブサイト (<http://ryoshin.doshisha.ac.jp>) や YouTube で公開されています。ぜひ、ご覧ください。

トランプ大統領とアメリカ民主主義の行方

会田弘継 (青山学院大学 地球社会共生学部)

1、アメリカのさまざまな分断線…

建国時から想定されていた？ 分裂と統合、という課題
州権と連邦政府。三権分立。『フェデラリスト』51の思想。pluralismとは。
→ 分裂・分断は前提であり条件 問題は分断線が濃くなる時？

2、選挙結果をあらためて見る → flyover, left-behind, forgotten people

3、近年の分断線濃厚化の背景

mixed が減って、consistently conservative/liberal が増える。
政治プロほど強い二極化 (当然)
90年代に起きた大きな変化 民主党・共和党の変質 (6で詳述) 淵源は68年選挙か。
今回の分断は左右ではない？ socio-economic scale の上下 (G・ナッシュ)。
→これも実は68年に始まる？ (silent majority, Donald Warren)

4、2016 選挙の経済的背景

→ 経済格差と学歴格差。リーマン後に露呈した矛盾。Managerial Elite (J. Burnham)

5、post-materialism 時代の「価値観」闘争？

(R・イングルハート)

価値観闘争もグローバル化と結びついた現象。追いつけない「非グローバル化」集団
グローバル化の要件としての多文化主義というエリート文化
多文化を必要としない人々、押しつけられている人々
identity politics の出現 = (経済) グローバル化への反動の側面
PC問題 (80年代から) ← Identity Politics の帰結？

6、ポブ・ライシュの予言した post-industrial society の労働者の二分化

サービス産業化・グローバル化と「格差」 70年代から始まり、90年代に本格化
民主党による「新産業」利用 共和党による労働者階級利用
リベラルも変容、保守も変容 → 支持者は逆転？

7、保守派内部の分断線

トランプ登場の意味は？ オルタナ保守の台頭
James Burnham → Samuel Francis → Alt Right
バックリー=レーガン保守主義運動の終焉か
「ネオコンサーバティズム」再考 → 戦後保守思想史見直しの必要性
シュトラウス派の2大潮流の対決という構図
「西海岸」シュトラウス派の意味 → アメリカ・ナショナリズムの再定義・再興か
新論壇誌 American Affairs → Trumpism を intellectualize する

8、Steve Bannon という存在

階級闘争史観？ (J・バーナムに近い) → populist

「The West の没落」の意識 → 終末論的な世界観 → 「文明の衝突」史観
資本主義観 → crony と libertarian

9、トランプ現象と若者の民主主義不信 → 強権政治待望？

日本でも起きて不思議でない状況

